

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：25502 学校番号

学校名：有明小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果	分析
体力・運動能力 <男子>	○全国平均と同等度もしくは上回った種目 握力 上体起こし 長座体前屈 50m走 20mシャトルラン 立ち幅跳び ソフトボール投げ ○全国平均より下回った種目 反復横とび	本校の体力づくりの取組に熱心に取り組む児童が多くいることが、全国平均を上回る項目が多かったという結果につながったと言える。
体力・運動能力 <女子>	○全国平均と同等度もしくは上回った種目 握力 上体起こし 50m走 20mシャトルラン 立ち幅跳び ○全国平均より下回った種目 長座体前屈 反復横とび ソフトボール投げ	日常的に体を動かす子とそうでない子の二極化という現状がある。本校の体力づくりの取組に熱心に取り組む児童が多くいることも結果につながったと言える。
運動・スポーツへの意識、 運動習慣	「運動やスポーツをすることが好き」と回答する子どもの割合 R7 男子 100%、女子 90% R6 男子 100%、女子 100% 体育の授業を除く1週間の総運動時間が60分未満の「ほとんど運動しない子ども」の割合 R7 男子 25%、女子 12.5% R6 男子 0%、女子 0%	ほぼ全ての児童が運動や体育の授業に対して肯定的な意識をもっている。全体の8割以上が日常的に運動に親しんでいるが、前年より割合が下がったことについては改善できるよう支援していきたい。

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組
-------	-----------------	-----------------------	---------------------

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○「課題探究的な学習」の推進 ・身体の使用方や運動のコツに迫る授業展開 ・運動の特性を味わうことができるような教材化 ○児童の「楽しい」「伸びた」につながる教師の技術指導力の向上の研修の実施 ・ゴールの姿を示した課題設定の在り方の模索 ○児童の共同的学びによる相互の振り返りと教師の価値付け ○年間を通したアリアケタイムのキャリアパスポートの位置付け ・目標を設定し、実行して振り返る機会を設定して、成長を実感できるようにしていく。 ・アリアケタイム「クロスカントリー走」「アリアケスポーツジム」「歩くスキー」など、年間を通した体力向上プログラム効果的に活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の機会の充実を図る環境整備の推進 ・運動遊びの要素を取り入れたコーナーの創設 ○「三間」の創出により運送機会の充実を図る取組 ・係活動などによる全員遊びや、たてわりグループによるたてわり遊びの機会を充実させる。 ・一輪車や体育館でボールを活用したりできるようにし、日常的に体を動かす機会や場を創出していく。 ・グラウンドで鬼ごっこをするスペース、ドッジボールやサッカーコート常設し、子どもたちが体を動かしたくなる場を作る。 ・アリアケスポーツジムを開催し、鉄棒やマット、跳び箱を体育館に常設する期間を設ける。 ・グローブや野球ボール、ミニサッカーゴールなど、外遊びができる道具を増やし、様々な運動を日常的に体験できるようにする。 ・豊かな自然・環境を生かした外遊びと教育活動の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養士と連携しながら、アカゲラタイムと関連させた食育の充実（命と身体の学びを深められる指導の充実） ○保健指導資料の充実と養護教諭の積極的な児童への関わり ○多様な性（LGBTQ+）に関する指導を「命の学習」としてカリキュラムに明確に位置付け、他教科とのつながりも意識しながらの計画
--------	--	--	--

家庭・地域との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の評価規準に基づく学習状況を評価し、指導の改善に活かす。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査や学校独自の調査結果等の活用 ○学校独自の児童アンケートや保護者アンケート等の活用 ○学校評議員・学校関係者等の評価の活用
--------------	--